

いたばし 学校訪問シリーズ 2

ビオトープ
ネットワーク

弥生小学校

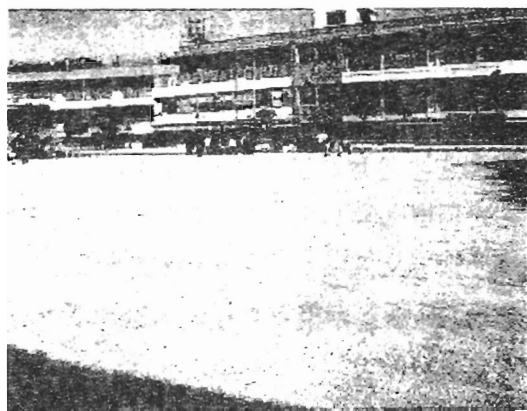
！ついに全面芝の 校庭完成！

ある中学校でALTをしていたオーストラリア人に日本の学校の感想を聞いたところ、「日本の学校は、コンクリートが多くて緑が少なすぎる。オーストラリアはコンクリートが少して緑の方が多い。」と感想を述べました。

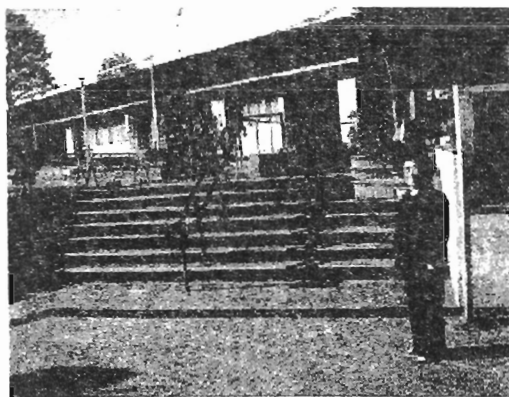
校庭に、便利さの追求で、ダストを敷いたり、ウレタンを張ったり、全天候型舗装をしたりして、使い勝手や雨・ほこりへの対策が優先されてきました。しかし、近年、子どもたちの体への良い影響を考え、舗装をはがして土に戻す学校も増えました。その中でも、校庭の芝生化は、植物の働きによる体への良い影響や、ほこり・温暖化対策等で一躍脚光を浴びるようになりました。

'05年8月6日の区内小の校庭で芝生の上とダストの上の温度を調べた数字があります。日照下、ダストの真上は49℃（水まき後36度へ）、芝生の真上は36℃（水まき後30℃）でした。その差は13℃もあり、測った人の方がびっくりしました。また、ある調査によると、4m²の芝生があると温度は1度下がるということです。センスオブアースの調査の実感として、温度は間違いなく下がる効果は大きいと確信しています。地面の土化は、最短の温暖化防止策とも思えます。

この度、東京都環境局の単年17年度予算で、ヒートアイランド対策として、都内23区で、小学校23校、中学校5校で校庭の芝化を進め、板橋区では弥生小学校、高島第三中学校（一部）、金沢小学校（一部）が芝化に取り組みました。さっそく、弥生小学校にお邪魔して、芝生化のねらいや、工事中の環境、管理の見通しなどについて、西村校長先生にうかがいました。



3月20日完成を迎えた弥生小の芝生校庭

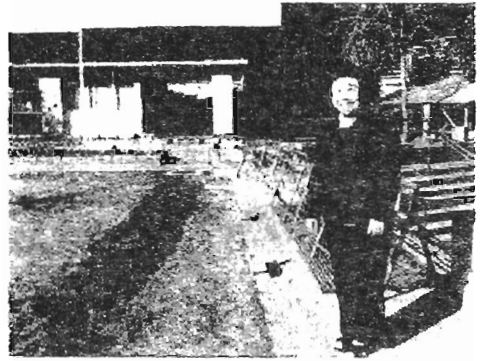


Q「校庭の芝化のねらいはなんですか。」

西村校長先生「それは、まず第1番に子どもたちが外で自然とふれあえるということです。ねころがったり、思いっきり体を動かしたり出来ます。環境にも関心を持ってくれるといいなと思っています。2番目に暑さと砂ほこり対策です。この学校は教室の建っている

校庭との段差が大きいピロティに立つ西村校長先生

校庭のスプリンクラーの工事



位置が校庭より低く、教室と地面が近いので夏はとても暑く風が吹くとベランダは砂ぼこりで白くなってしまいます。3番目には水害です。大雨が降ると、一挙にピロティに雨が流れ落ちるので排水管の許容量を超えてしまうためです。水が引いた後のピロティは真っ白になってしまい主事さん方の掃除が大変です。」

Q「この計画を決める前にどなたかに相談なさいましたか。」

西村校長先生「はい。PTA会長さんや、町会長さんたちです。芝生の話が出たときに、管理・維持のこともあり地域の方に相談しました。地域の方々は、他区の芝生の学校を知っており“応援するので弥生小をぜひ芝生に”といいましたが、簡単には決められません。PTA会長さんや町会長さんと何度も話しました。また、いろいろ調べ、教職員に説明して理解してもらいました。申込日は締め切り日になってしまいました。」

Q「運動会・体育の授業や地域の野球チームの練習など、芝の校庭でやるのでしょうか。心配する方も多いので。」

西村校長先生「それが私も心配でした。教職員に説明する前に他区で既に芝生校庭になっている学校に問い合わせ調べました。体育の授業はどうやっているのか、運動会はどうするのか、ラインはどうしたか、休み時間はどうやって遊んでいるか、校庭開放で野球やサッカーをやっても大丈夫か、芝生を養生する時期はいつかなど、調べました。その上で大丈夫と判断しました。また、子どもたちの多くが野球チームに入っています。練習が出来なくなったらかわいそうだと思います。地域センターの方や野球の監督さん方とも話しました。芝生化を進めて下さいと言ってもらえました。」

Q「区内の学校で、応募はどのようでしたか。」

西村校長先生「たくさんの問い合わせがあったと聞いております。」

Q「芝の管理の見通しはいかがですか。」

西村校長先生「町会が中心となって、グリーンサポート隊が出来ました。構成は保護者・学校・地域そして校庭利用関係団体です。」

Q「水まきが必要ですが、どんな計画ですか。」

西村校長先生「はじめは、スプレーガンでやるはずでした。(水まき口を手で移動して置いて歩くもの)しかし、調べてみると、スプリンクラーも同じ予算で出来、おまけに水の使用量も少なくてすむことがわかり、満遍なく芝生に水をまけることになりました。」

Q「完成後の管理で、心がけることは何でしょうか。」

西村校長先生「主に、芝生がはげてしまったところに、張り替え用に育てている芝生を植え替えること・芝刈り(安全のためと、芝生の成長を促進するため・景観など)・そして種まきをすることです。」

Q「工事中、校庭が使えない時、どのようにされましたか。」

西村校長先生「学級数の関係で体育館を使う回数が増えたこと、近隣の中学校の校庭を使用させてもらえること、近くの公園も使えるので、スムーズにいきました。」

Q「芝の種類はどのようなものですか。また業者の方はどなたですか。」

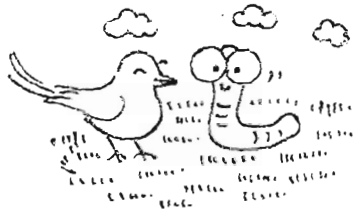
西村校長先生「夏芝と冬芝の両方を使いました。業者は池田農園さんです。」



.....
やさしく芝生をなでる6年生たち

その後、3月20日(月)朝に校庭芝生化お祝いの会が開かれました。当日は、グリーンサポート隊の方と子どもたちが顔合わせしました。校長先生のお話や隊長さんのお話を聞き、子どもたちは、自分たちにも芝生のために出来る役割があることを学びました。代表委員会が中心となって、全校児童によびかけた標語の募集の結果、『しばふには やさしい心がつまってる』『青々と しげるしばふを大切に』『あそぼう よしばふの上で 友だちと』に決定しました。最後に記念撮影をして、校庭芝生化の完成をお祝いしました。

今は、まだ、芽が出ていない茶色の芝ですが、6月頃には青々とした芝生になって行くのが楽しみです。板橋区で初めての校庭全面芝生化の学校として、良い成果が生まれるのを期待しています。



板橋区教育委員会庶務課

学校施設係長 小磯雅弘さんのお話

今回の芝生化は、東京都の予算で組まれた単年度の企画です。応募の条件として、維持・管理の組織を作ることが前提でした。条件が整った学校が3校だったので、3校とも実施になりました。弥生小は約2,000m²、金沢小1,000m²、高島第三中500m²、です。今後のメンテナンスはすべて学校が行うことが条件です。養生の期間は、大体2月、3月と7月、8月という考えです。

板橋区教育委員会庶務課

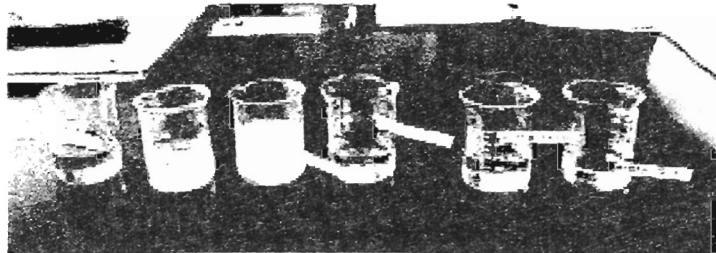
学校施設係長 石川 豊さんのお話

予算は弥生小が芝生化の費用が1,584万円、スプリンクラーは726万円、その他で、合計で約3,000万円近くになります。

ビオトープづくりの予算は平成18年度は計上していません。希望校があれば、平成19年に予算化が可能です。大規模改修の設計段階で、ビオトープづくりを含めることはできます。(関心のある学校関係者のみなさんは、学校施設係へ問い合わせてください。)

おもしろい水質実験やりました あなたはこの答え、わかりますか？

6つのサンプル。さて、どれが一番…？



「水質調査」などというと実生活とはあまり縁がなくて、どちらかといえば研究者やお役所のお仕事、というイメージを持つ方が多いかもしれません。

でも「水」は生命を維持するために不可欠な資源であり、毎日口にする水の安全性にはもう少しアンテナを張り巡らす気持ちを高めるべきでしょう。

板橋区のエコポリスセンター（前野町）では環境に関する講座（というとき堅苦しいのですが、内容は子どもでも理解できて、なおかつ楽しめる要素を含んだ勉強会）を定期的で開催しています。今回はその中の「水質検査」に関する勉強会に参加しました。

水質調査をする場合、さまざまな調査項目があります。その中の一つ「COD検査」という項目は聞いたことのある方も多いでしょう。

これは水の汚れを知る上での重要な目安として、水中の有機物の量を測定する検査です。有機物には、例えばプランクトンや台所からの排水、家畜のし尿などがあります。これらの測定には専門のキット（試薬）を使用します（市販で1本140から150円程度）。

そこでこの日、6つの異なる「水」に含まれるCODの量を調べる興味深い実験をしました。サンプルは次の通りです。さて、この6つのサンプルのうち、皆さんがきれいだと思う順に番号をつけてみてください。そして別掲の答えと照らし合わせて、ご自分のイメージとあっていたか確かめてください。

1. 水道水 ()
2. 生ごみ《みかんの食べかす》を通した水 ()
3. 食べ物《しょうゆ》のついた皿を洗った水 ()
4. 食べ物をふいた皿を洗った水 ()
5. 手を洗った水 ()
6. 荒川の水 ()



この講習を担当して下さったスタッフの神山健次さん、石井碧さんから基礎的な知識を学んでから実験へ

この日はこの他にも「土の中に隠れ住んでいる虫たちの生態」を調べる勉強会も行いました。肉眼で観察するもの、顕微鏡を使っての観察など、興味深い内容でした。思わぬ発見は、顕微鏡とデジタルカメラですごい写真が撮れることでした。

小学生時代の実験を思い出しながら



ミクロの世界？

アリさんの頭もこんなにでっかく！

講習に関するエコポリスセンター連絡先

『環境ミニ教室』03-5970-5001 へ

今回受講したのは《水のコース》《緑と生き物のコース》ほかに《ごみのコース》《空気のコース》があります。

(03)5970-5001 (TEL) (03)5970-5002 (FAX) (03)5970-5003 (E-MAIL) : ☎

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp